

「工房 Nishi」とは何か？

「工房 Nishi」とは、私が趣味で永年手がけて来た古い家電品や事務機械などを動態で保存する活動を包括する一種の屋号です。何をしているのか？ 年金暮らしの現在、何もしていない、と言うのも事実ですが、過去の実績を挙げれば、以下の通り。

1. 骨董機械類の整備、修理、動態保存（有償修理は実績なし）
2. 博物館などへ展示品貸出し
3. 骨董機械の出前実演（蓄音器で昔のレコードをかけるなど）
4. 骨董機械の学術的分類調査協力
5. 骨董機械類の売買（神奈川県公安委員会、古物商登録済）
6. 博物館などの企画展示、企画立案と実施協力
7. 授業、講演会（科学技術の歴史、録音の歴史など）

得意領域は、蓄音器、テープレコーダ、カメラ、タイプライター、機械式計算機、電話機、などなど。現在の所蔵品は凡そ 300台ほど。

「工房 Nishi」の括りに入るかどうか、判断に迷うのが以下の 2項目。

8. 著述編集代行（自分史や技術分野のゴーストライト）
9. 文字通りの DTP 自費出版（著書 38冊、延べ部数不明）

はみ出すのが明らかな別の分野が、「音楽（弦楽アンサンブル）」と「鉄道旅行」。生涯の趣味ながら、コロナ後が見通せていません。

自己紹介

西村 志郎（にしむら しろう）（ペンネーム：西 志郎）

1948年鹿児島生まれ、湘南育ち、埼玉大学機械工学科卒。

職歴は複雑で、関西系弱電メーカーにて、鉄道自動改札システム、カード関連新商品開発、デジタル交換機輸入販売に従事の後、外資系に転社。通信システム運用から始まり、最後はシステム部日本代表。北海道の機械化農業ベンチャービジネスに参画後、会社清算失業。友人の IT ネットワークサービス会社を手伝う傍、技術系単科大学で科学技術史の非常勤講師を勤め、58歳で早期退職。以後ボランティアベースの年金生活に入る。生涯の興味の軸は「マン・マシン・インタフェース」。

「元コンピュータ通信技術者」よりは、「アナログ時代を覚えているデジタル黎明期の絶滅危惧種科学老年」に近いとの自覚あり。

一女一男の子供が自立して遠くに暮らす現在、妻と二人、横浜暮らし。